



エコアクション21
認証・登録番号0009429

株式会社 山極 環境経営レポート 2024

活動期間 (2024年4月1日～2025年3月31日)



1 社会課題解決への貢献



2 環境保全への取り組み



3 公正な事業慣行・組織体制



4 地域社会への貢献



認証・登録日 2013年6月7日

作成日 2025年5月30日

＜ご挨拶＞

当社は昭和43年創業以来、金属リサイクル業(再生資源)を主に製造工場から発生する金属、自動車解体から発生するミックスメタル(金属の混合物)、一般廃棄物、産業廃棄物に含まれる金属(鉄・非鉄金属・レアメタルなど)のリサイクル事業と産業廃棄物収集運搬・産業廃棄物中間処理・産業廃棄物再生事業を営んできました。

今後も、私たちのかけがえのない地球をまもるため、環境に優しいリサイクル事業に取り組めます。

株式会社 山極
代表取締役 山極 進一

＜目次＞

① 環境経営方針	… P2
② 組織の概要(事業所名、所在地、事業概要、事業規模)	… P3
③ 対象範囲(認証・登録範囲)、レポートの対象期間	… P4
④ 許可の概要	… P5－P6
⑤ 処理工程図	… P7
⑥ 受諾した産業廃棄物の処理量	… P8
⑦ 一般廃棄物収集運搬量	… P9
⑧ 有価物の処理量	… P9
⑩ EA21推進体制	… P10
⑪ 環境経営目標とその実績	… P11
⑫ 処理量100t当りの二酸化炭素排出量の年度別推移	… P12
⑬ 環境経営活動の取組と評価	… P13
⑭ 環境関連法規制の遵守状況	… P14
⑮ 代表者による全体の評価と見直し・指示	… P14

① 環境経営方針

[基本理念]

私たちは、かけがえない地球を守ることが、人類共通の最重要課題のひとつと認識し、地球環境に配慮した事業活動に努めます。

[基本方針]

環境保全活動を推進するにあたり、以下に主な活動項目を掲げ取組みます。

1. 当社の主力事業である、非鉄金属、鉄の選別・加工及びアルミ缶・スチール缶のプレス・破碎加工で技術的・経済的な事情を考え、環境に与える影響を減らすとともにリサイクル社会の実現に努めます。
 - ① 二酸化炭素排出量削減のため、使用電力の削減、使用化石燃料の削減、廃棄物の単純焼却の削減に努めます。
 - ② 事業活動で発生する廃棄物は、発生を抑えるとともに、再利用の向上に努めます。
 - ③ 限りある水は、使用量の削減のため節水に努めます。
2. 環境活動の継続的改善を推進するにあたり、環境経営目標・環境経営活動計画を作り、取組みます。策定した目標・活動計画は定期的または必要に応じて見直します。
3. 事業活動において、環境に関わる法律や規制などの公的な基準を守ります。
4. この環境経営方針は、全社員に周知するとともに、環境に対する教育を行い、社員の環境に関する意識の向上をはかります。

2018年6月1日

株式会社 山極

代表取締役

山極 進一

② 組織の概要(事業所名、所在地、事業概要、事業規模等)

1. 事業者名及び代表者名

株式会社 山極
代表取締役 山極 進一

2. 所在地

[本社] 群馬県太田市大原町82-5
[営業所] 群馬県太田市大原町1534-5

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 代表取締役 山極 進一

環境管理責任者 専務取締役 山極 修

環境管理責任者 山極 剛

統括環境管理責任者 取締役 山極 圭悟

担当 EA21事務局 阿久澤 守英

竹澤 小百合

連絡先 TEL 0277-78-2741
FAX 0277-78-2743
E-mail yamagiwainc@email.plala.or.jp

4. 事業概要

再生資源卸売業
・非鉄金属原料(銅、真鍮、アルミニウム、他)
・産業廃棄物中間処理業
・産業廃棄物収集運搬業
・一般廃棄物収集運搬業
・廃棄物再生

5. 事業規模

法人設立年月日 昭和63年4月1日

資本金 1,000万円

売上高 31億7760万円

事業年度 4月1日から3月31日

従業員数 26名

就業時間 8:15~17:30

年間稼働日数 285日

敷地面積 本社 15,180㎡
営業所 6,435㎡

③ 対象範囲(認証・登録範囲)、レポートの対象期間

1. 対象範囲(認証・登録範囲)

株式会社 山極 全組織、全活動を対象範囲とする。

再生資源卸売業

- ・非鉄金属原料(銅、真鍮、アルミニウム、他)
- ・産業廃棄物中間処理業
- ・産業廃棄物収集運搬業
- ・一般廃棄物収集運搬業
- ・廃棄物再生

2. レポートの対象期間及び発行日、改定日

対象期間 : 2024年4月1日～2025年3月31日

発行日 : 2013年6月7日

改定日 : 2025年5月30日

④ 許可の概要

(1) 産業廃棄物中間処理業許可

群馬県許可番号	01020 006586
許可の年月日	令和3年2月1日
許可の有効期限	令和8年1月31日
事業の区分	中間処理(圧縮)(破碎)
産業廃棄物の種類	金属くず(圧縮) 廃プラスチック(破碎)
施設の種類	圧縮・破碎
処理能力	379t/日(圧縮) 1.04t/日(破碎)

(2) 産業廃棄物収集運搬業許可

県名	許可番号	許可の年月日	許可の有効期限
群馬県	01000 006586	令和5年10月19日	令和10年10月18日
埼玉県	01100 006586	令和6年1月25日	令和10年12月19日
栃木県	00900 006586	令和5年12月13日	令和10年12月12日
長野県	2009 006586	令和5年12月3日	令和10年12月2日
茨城県	00801 006586	令和6年6月4日	令和11年3月26日
千葉県	01200 006586	令和6年4月15日	令和11年3月26日
東京都	13 00 006586	令和6年6月20日	令和11年6月19日
神奈川県	01400 006586	令和6年6月3日	令和11年5月6日

①事業区分… 収集、運搬

②許可の条件… なし

③産業廃棄物の種類・汚泥、廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類

(3) 一般廃棄物収集運搬業

市名	登録番号	許可の年月日	許可の有効期限
太田市	113	令和6年6月1日	令和8年5月31日

(4) 産業廃棄物再生事業者登録

県名	登録番号	再生の方法	廃棄物の種類
群馬県	第30号	圧縮・切断・選別	金属くず

(5) 古物商許可（群馬県公安委員会）

公安委員会名	許可番号
群馬県公安委員会	421110218200号

(6) 解体工事業者登録

県名	登録番号
群馬県	群馬県知事(登-6)第853号

(7) 使用済自動車解体業許可

県名	許可番号
群馬県	20103002797

(8) 使用済自動車引取業者登録

県名	登録番号
群馬県	20101002797

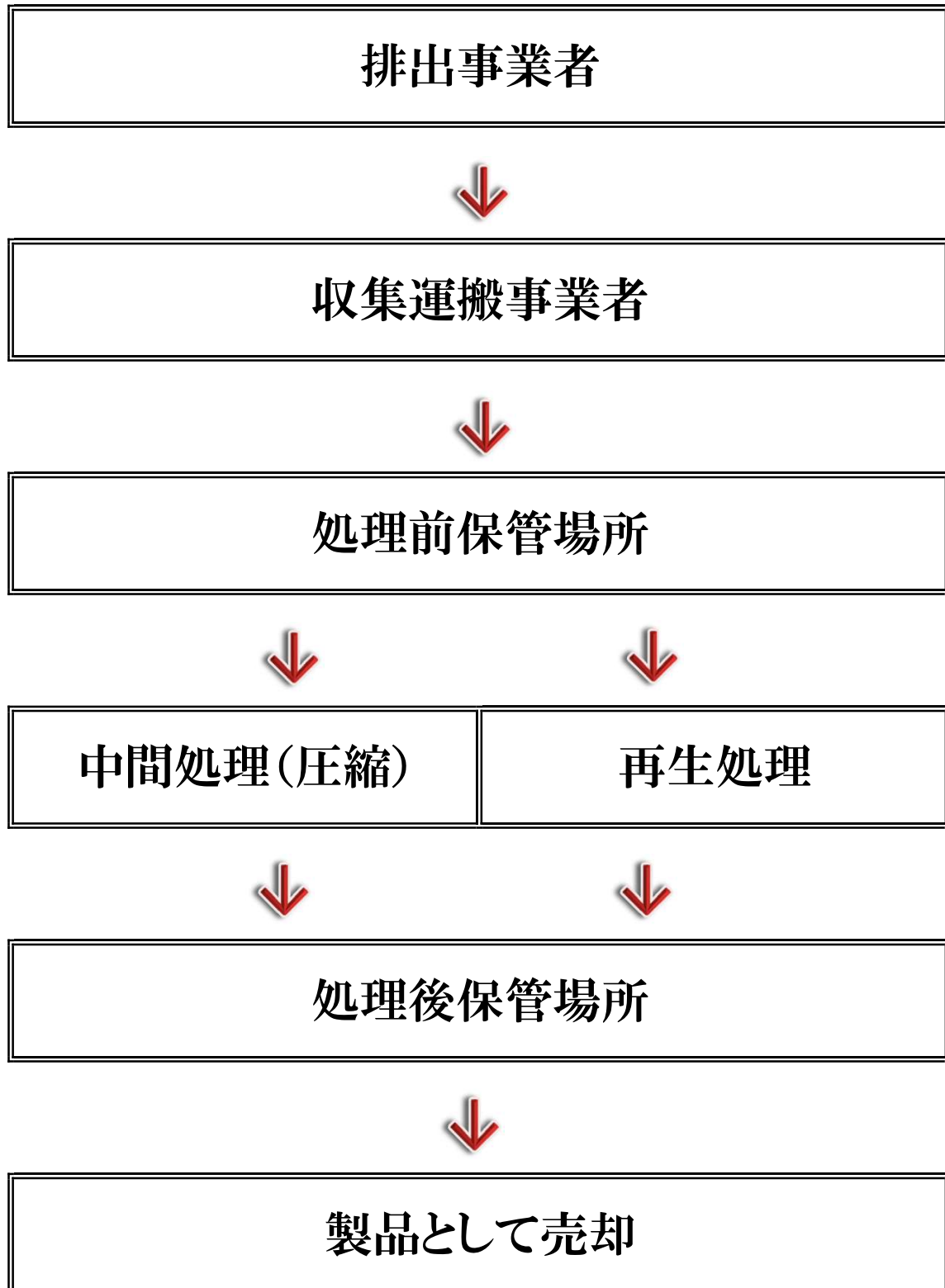
(10) 収集運搬車輛

13t平ウイング	…1台
13tアームロール	…3台
12t平ボディーダンプ	…2台
7tアームロール	…3台
7t平ボディー	…1台
3. 5tクレーン付平ボディー	…2台
1t平ボディー	…1台

(11) 重機

ショベルローダー(バケット付)	…3台
フォークリフト(全回転ホーク付)	…7台
フォークリフト(バケット付)	…5台
フォークリフト(アタッチメント無)	…2台
油圧ショベル(全回転付)	…4台
油圧ショベル(マグネ付)	…1台
油圧ショベル(カッター付)	…1台
油圧ショベル(圧破砕機付)	…1台
油圧ショベル(ハサミ)	…1台

⑤ 処理工程図



⑥ 受諾した産業廃棄物の処理量

環境レポート		廃棄物等種類	処分方法等	処理量(kg)
(i)収集運搬		廃プラスチック類		169,710
		木くず		33,410
		金属くず		29,189
		混合廃棄物		10,520
		ガラス・陶磁器くず・がれき類		27,920
収集運搬量合計				270,749
(ii)中間処理		金属くず	圧縮	70,915
		廃プラスチック類(付着物)	金属くずから選別したもの(内数)	3,341
うち 再資源化等	金属くず	圧縮	70,915	
	廃プラスチック類(付着物)	再利用	3,341	
	再資源化等量小計		74,256	
中間処理量合計				74,256
(iii)最終処分				
最終処分量合計				0
(iv)中間処理後の産業廃棄物	最終処分			
	再資源化等	金属くず	再利用	70,915
		廃プラスチック類	再利用	
		廃プラスチック類(処理委託)	破碎、焼却(熱回収)	3,341
		再資源化等量小計		74,256
中間処理後処分量合計				74,256

⑦ 一般廃棄物収集運搬量

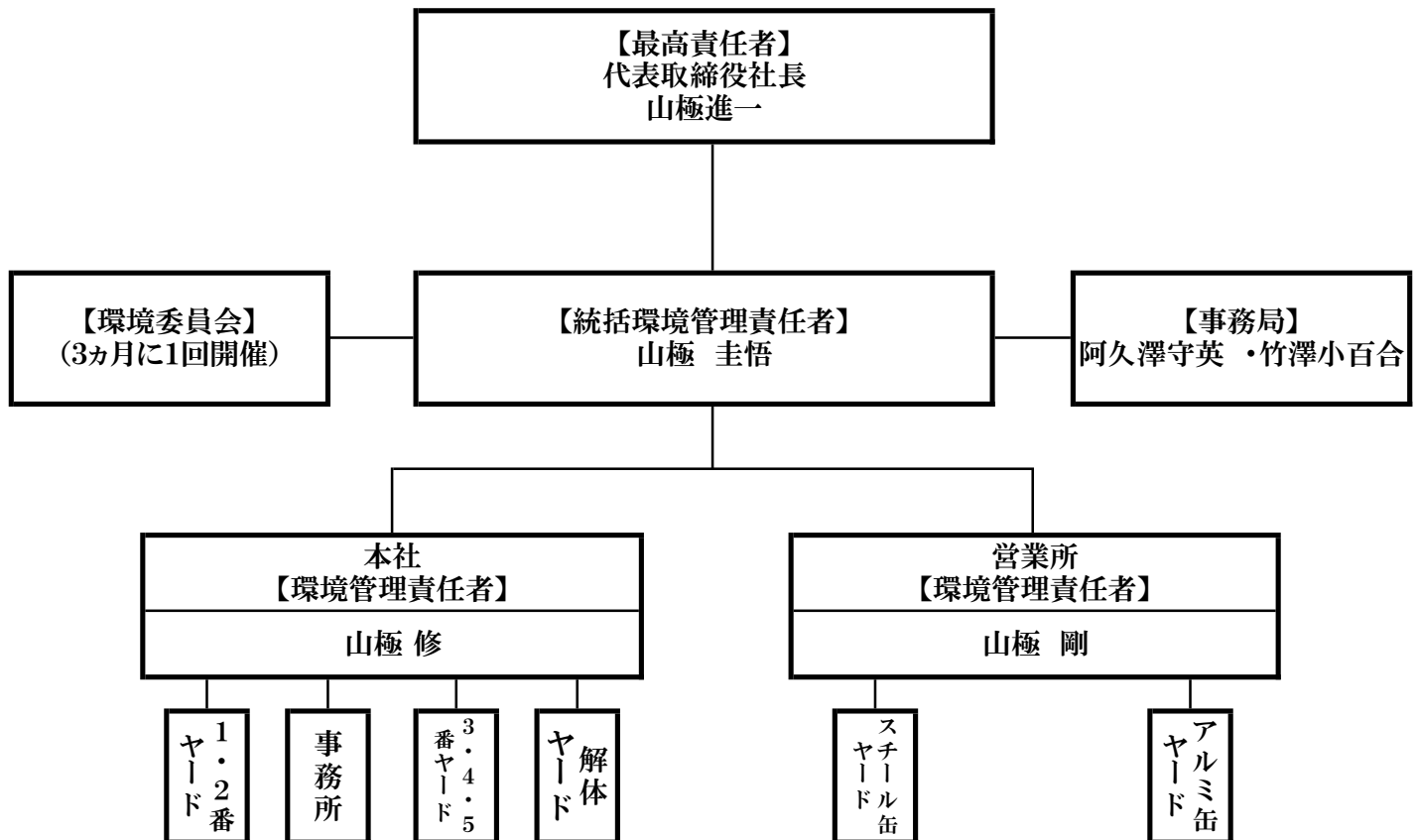
種類		収集運搬量(kg)
事業系	可燃ごみ	1,350
	不燃ごみ	0
家庭系	可燃ごみ	8,330
	不燃ごみ	540
合計		10,220

⑧ 有価物の処理量

環境レポート	種類	加工法	処理量(kg)
2024年度総入荷量			11,308,713
加工処理 (機械処理)	金属	圧縮	2,191,762
		破碎	1,715,208
		検収(選別・加工)	5,264,784
加工処理品合計			9,171,754
無加工	金属		156,983
加工選別後の廃棄物	プラスチック	再利用	36,865
2024年度総出荷量			10,631,108

⑨ EA21推進体制

2025年4月1日



職名	役割
最高責任者	【代表取締役 山極進一】 ①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 ②エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源(人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む)を準備する。 ③環境方針を制定する。 ④エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境方針・環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。
環境管理責任者	【山極 修・山極 剛・山極圭悟】 ①エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。 ②エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
事務局	【阿久澤守英・竹澤小百合】 ①事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。
環境委員会	最高責任者・環境管理責任者・事務局・部門長で構成し、3ヵ月に1回環境管理責任者が召集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めた者は出席することができる。

⑩ 環境経営目標とその実績

2023年度実績を基準年として、3年間(2024年度(当年度)、2025年度(次年度)、2026年度(2年後))の活動目標を定め活動を開始した。

年度 項目		2023年度	2024年度			2025年	2026年度
		基準年度	目標(目標1%)	実績	増減率	目標(目標1%)	目標(目標1%)
二酸化炭素 総排出量実績	kg-CO2	361,067.8	357,457.12	349,776.92	○ ▲2.15%	357,457.12	357,457.12
処理量100t 当り二酸化炭 素排出量の削 減	kg/100トン	3,278.56	3,245.77	3,290.16	× +1.36	3,245.77	3,245.77
産業廃棄物排出 量	kg	91,480	90,565.20	55,945	○ ▲38.23	90,565.20	90,565.20
処理量100t当り 産業廃棄物の 削減	kg/100トン	830.65	822.34	526.24	○ ▲36.01	822.34	822.34
一般廃棄物排出量	kg	1,315	1,301.85	1,770	× +35.96	1,301.85	1,301.85
処理量100t当り 一般廃棄物の 削減	kg/100トン	11.94	11.82	16.65	× +40.86	11.82	11.82
水使用量	m ³	478	473.22	485	× +2.49	473.22	473.22
処理量100t 当り水資源投 入の削減	kg/100トン	4.34	4.30	4.56	× +6.05%	4.30	4.30
照明のLED化	事業所のLED化		営業所のLED 化	LED率:0%			
本業に関する目標	①エコドライブの推 進 ②電気使用量の削 減の徹底	-	①エコドライブの推 進 ②電気使用量の削 減の徹底	①前年に比べ軽油 使用量の減少 ②加工物が多かつ た為、電気使用量 が増えた。	-		

※2022年よりウエスト電力→東京電力→日本テクノへ変更。(本社発電所のみ東京電力のまま)

※2022年より、2022年日本テクノ:調整後のCO2排出係数=0.485kg-CO2/kwhを使用。

(本社発電所は東京電力の2022年東京電力パワーグリッド:調整後のCO2排出係数=0.433kg-CO2/kwhを使用。)

※2024年度 CO2総排出量;349,886.96kg-CO2

※2024年度 産業廃棄物収集運搬量270,749kg

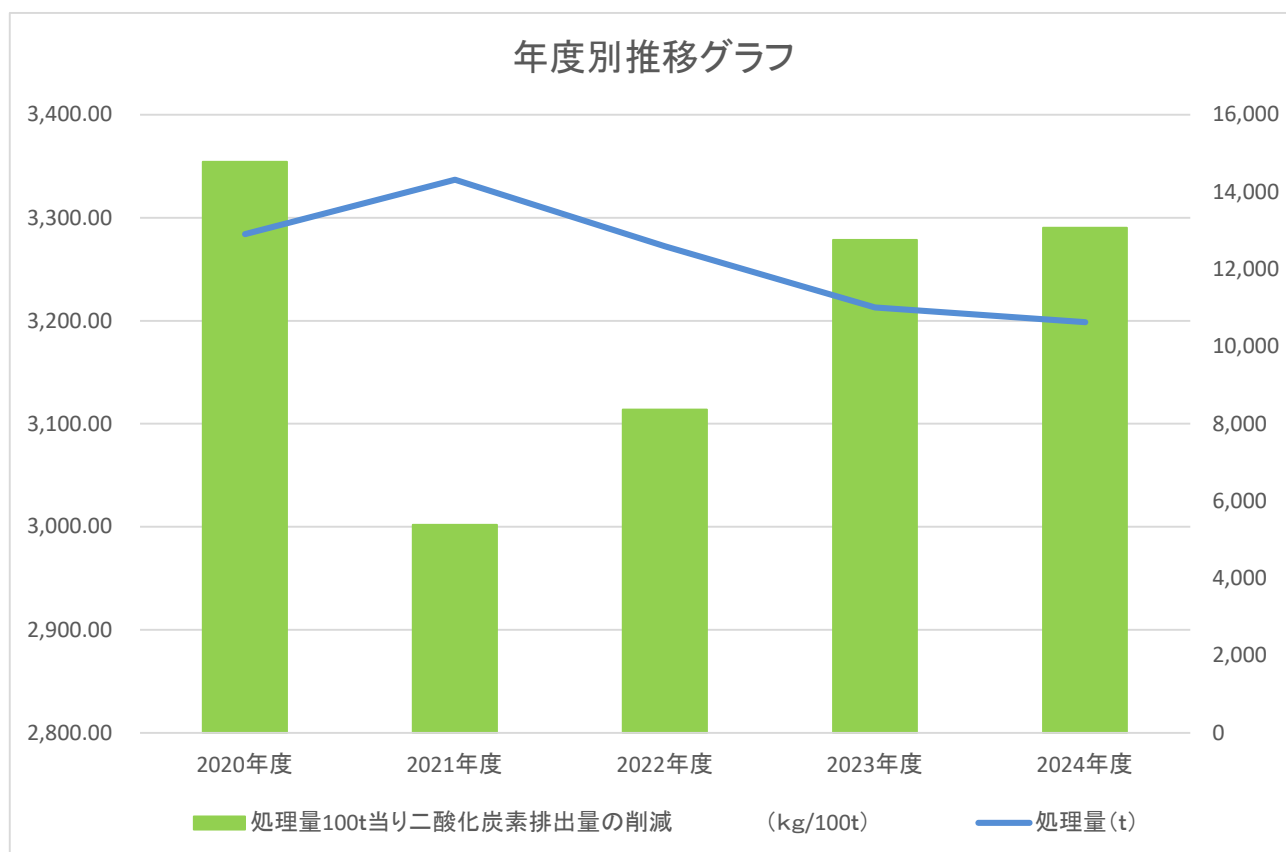
※2024年度 産業廃棄物中間処理量74,256kg

※2024年度 産業廃棄物総排出量724,435kg

※化学物質は切断時にアセチレンを使用しているが、微量なため適切な管理をし、目標は設定しない。

⑪ 処理量100t当りの二酸化炭素排出量の年度別推移

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
処理量(t)	12,912	14,323	12,594	11,013	10,631
処理量100t当り 二酸化炭素排出 量の削減 (kg/100t)	3,354.24	3,001.82	3,113.90	3,278.56	3,290.16



⑫ 環境経営活動の取組と評価

1. 二酸化炭素の排出量の削減

取組計画	評価
《目標》 2023年度の実績に対し 1%削減 《実施事項》 ①電力、ガソリン量の集計及びグラフ化 ②照明・PC電源不要時のOFFの徹底 ③エアコンの点検（フロン類漏えい点検） ④エコドライブ推進 ⑤車両・重機の点検・整備 ⑥油水分離層清掃 ⑦目標達成状況・活動進捗状況確認	基準年を2023年とし1%減を目標に算出した。 基準年に比べガソリン、軽油使用量の削減ができた。理由としては、スクラップの動きが少なくなったからだ。去年プレス機が壊れ在庫も溜まっていたため加工が増え、電気と水道使用量が増えた。処理量100t当り二酸化炭素排出量の削減率は、1.36%増となり達成できなかった。
	次年度の取組内容
	去年の一番低い軽油金額と比べ15円も上がっているため、エコドライブを意識していく。また、機械の稼働率が増えると、電気使用量も比例して増えるため細かい所を徹底し削減する。

2. 産業廃棄物の削減

取組計画	評価
《目標》 2023年度の実績に対し 1%削減 《実施事項》 ①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③廃棄物排出量の集計 ④目標達成状況・活動進捗状況確認	産業廃棄物量は、55,945kgとなり基準年に比べ38.23%の削減となった。再資源として売却できるようなものの分別をし、産業廃棄物の削減ができた。
	次年度の取組み内容
	入荷してくるものによって加工後の産業廃棄物の排出量が左右されるが、なるべく減らせるように分別を徹底していく。

3. 一般廃棄物の削減

取組計画	評価
《目標》 2023年度の実績に対し 1%削減 《実施事項》 ①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③廃棄物排出量の集計 ④裏紙使用ルールの徹底 ⑤目標達成状況・活動進捗状況確認	廃棄物量が1,770kgとなり、基準年に比べ35.96%も増加してしまった。事務所の整理や貯水池の清掃などで一時的に一般廃棄物量が多くなった。 処理量100t当り一般廃棄物の削減率も40.86%増となり達成できなかった。
	次年度の取組み内容
	分別ルールの徹底や裏紙を使用するなど細かいところまで一人一人が意識するよう周知して削減に努める。

3. 水資源投入量の削減

取組計画	評価
《目標》 2023年度の実績に対し 1%削減 《実施事項》 ①毎月のメータを確認する（漏水防止） ②節水の徹底 ③増量ノズルへの交換 ⑤目標達成状況・活動進捗状況確認	排水量は485m ³ となり、基準年より2.49%増となり未達成となった。処理量100t当り水資源投入の削減も、6.05%増となり達成できなかった。2月頃、プレス機の冷却塔の部品が壊れていて通常より多く水を使用していた。
	次年度の取組み内容
	次年度は、機械のメンテナンスをこまめにし、漏水に早く気付けるようにして節水を徹底していく。

4. 照明のLED化

取組計画	評価
《実施事項》 事務所内のLED化	今のところ事務所と食堂の蛍光灯はすべて水銀入り。
	今後の取組内容
	事務所と食堂のLED化を進める。

5. 本業に関する目標

取組計画	評価
《実施事項》 ①エコドライブの推進	①毎日の点検や、月一回のメンテナンスを欠かさず実施していた。 ②会社内の電力の不要時、電源OFFが徹底されていた。
	今後の取組内容
②電気使用量削減の徹底	①会社全体でエコドライブへの意識を高める。 ②休憩など電気不要時は電源オフを徹底する。

⑬ 環境関連法規制の遵守状況

1. 当社に適用となる環境関連法規

法規制等の名称	要 求(主なもの)	遵守状況
(1) 自動車から排出される窒素酸化物の特定地域における総量の削減等に関する特別処置法	NOX・PMの排出抑制	遵法
(2) 道路運送車両法	・日常点検整備、定期点検整備 ・車検	遵法
(3) 道路交通法	過積載の禁止	遵法
(4) 浄化槽法	年1回第11条検査を受ける	遵法
(5) 騒音規制法	届出、年1回の測定	遵法
(6) 振動規制法	届出、年1回の測定	遵法
(7) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・許可の取得 ・委託契約の締結 ・マニフェストの運用・保管	遵法
(8) 労働安全衛生法	年1回の健康診断の実施	遵法
(9) 消防法	・防火管理者の設置 ・消防用設備等設置	遵法
(10) 計量法	年1回の検査受診	遵法
(11) フロン排出抑制法	簡易点検の実施	遵法

2. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

適用される主な環境関連法規等の一覧及びこれらの遵守状況を確認した結果、環境関連法規への違反はしていません。なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

⑭ 代表者による全体の評価と見直し・指示

令和6年度決算は、対前期15.31%増の売り上げに至った。
 但し、当社の業界は最終的に期末在庫の数字により利益が確保できるか否かとなる業界であり、いかに在庫を抱えない事が今後も大きな課題となります。
 その為に本年度の課題として以下の3点を挙げるものです。
 ①昨年設備をした中古ベレー機機の正常稼働、②スムーズな資金繰り操作、
 ③適正在庫数の確保及び管理手法となり、その確率を主体に、限りのある資源をいかにリデュース、リユース、そしてリサイクルを基本に、資源再生事業者として環境保全へ取り組んでいく所存であります。